

第6小主題

自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実

「校長の課題意識に基づく教職員の意識改革と協働による生徒指導の展開」

西会津町
銚子ノ口の紅葉

※著作権の関係で
お見せできません。

喜多方市
長床の紅葉

※著作権の関係で
お見せできません。

北塩原村
五色沼の紅葉

※著作権の関係で
お見せできません。

耶麻支会

北塩原村立裏磐梯中学校長

齋藤 和久

1

【発表内容】

I はじめに

II 研究計画

III 研究の内容と視点

IV 研究の実際

V 成果と課題、次年度に向けて

2

I はじめに

1 耶麻地区のあらまし

- 会津地方の北西部
- 1市1町1村
 - ・ **喜多方市** (7中学校)
 - ・ **北塩原村** (2中学校)
 - ・ **西会津町** (1中学校)
- 面積は約1,086.8km²
- 人口は約48,000人(R7.8.1)
- 「食・自然景観・歴史文化がバランスよく揃った地域」
(ChatGPT)



3

I はじめに

2 耶麻地区の生徒の実態

- ▶ 1市1町1村に中学校は10校あり、各学年1学級という小規模校である。（10校中6校が小規模校）
- ▶ 子供の数が年々減少、今年度末で統合する学校もある。
- ▶ 固定化された人間関係の中で自分らしさが出せない生徒がいる。
- ▶ スマートフォンやタブレットの利用時間が長い。
- ▶ SNSによるトラブルが学校規模に関係なく起こる。
- ▶ 学校・保護者・地域の連携には課題もある。

4

Ⅱ 研究計画

- ▶ R7年1月 耶麻校長会研修会にて次年度の検討
 - 生徒指導の充実を意識した教育課程編成
- ▶ R7年4月 耶麻校長会総会
 - 課題意識調査についての説明
 - 課題意識調査の実施、集計
- ▶ R7年5月 耶麻校長会研修会
 - 県研究部長会報告
 - 意識調査結果報告
 - 研究の方向性検討、決定

Ⅱ 研究計画

- ▶ R7年6月 耶麻校長会研修会
 - 講話「本県の不登校生徒の現状と
不登校児童生徒支援センター（roomF）に
おける支援について」

講師：福島県不登校児童生徒支援センター
主任指導主事 肥沼志帆様
 - 実践資料のまとめ方の確認
 - 実践資料の作成、担当へ提出
 - 担当は研究要旨の作成

II 研究計画

▶ R7年8月 耶麻校長会研修会

- 各校進捗状況の報告
 - 研究要旨の中身の確認

▶ R7年9月 県大会での発表内容の確認

▶ R7年10月 県校長会相双大会

▶ R7年10月 耶麻校長会研修会

- 県大会発表の反省、総括
 - 次年度の研究の方向性について検討
 - 研究集録作成に向けての確認

III 研究の内容と視点

1 校長の課題意識を明らかにするために

○R5年度伊達地区小学校長会が研究推進のために独自に作成した「アセスメントシート」を活用。

○研究の観点に対して、校長が行う働きかけの中で必要性が高いと感じているものは何なのかを洗い出す。

アセスメントシートの結果集計

作成日	2025/4/	観点①	観点②	観点③	
まず、「1研究の観点」①～③の中での自校の課題と思われる内容を2つお選びください。（青セルの中）次に「2具体的な働きかけ」の中で、先に選んだ自校の課題を解決するにあたって必要だ、あるいは大切だと思われる項目を選んでください。そして、その必要度や重要度等に応じて1～4で評価してください。（赤セルの中）		好ましい人間関係を築き、他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する学校教育のあり方	いじめ問題への対応や自殺の防止及び不登校生徒への支援のあり方	家庭や地域及び関係機関、専門スタッフ等との連携・協力を密にした生徒指導の推進	
4 非常に重要。重点的な関わりが必要。積極的な対応が必要。 3 とても重要。現状でも対応可能。 2 重要。対応策や見通しをもつことは容易。すぐに対応可能。 1 気になっている。ちょっとした配慮で対応できる。 実際に行えている。 無回答 十分対応できている。	10	6	4		
2具体的な働きかけ 課題解決のために校長が行う具体的な「働きかけ」 (例)としてア①～カ③まで21項目示されています 自校の課題解決を図る上で必要と思われる項目を選び1～4の番号（重要度）をつけて下さい。（赤セルの中）	ア 目標や重点実践事項の共通理解、共通実践 イ 校務分掌の改善、活用 ウ 所属職員への働きかけ エ 校長同士の協議調整（他中学校、異校舎） オ PTAや地域との連携、協働の推進 カ 外部人材や関係機関の活用、連携	①学校経営・運営ビジョン作成への教職員の参加の促し、体制づくり ②学校評価の一連の活動への教職員の参加の促し、体制づくり ③人事評価との関連の明確化 ④分かりやすい役割分担（分担が多岐に渡らないようにする配慮） ②リーダーやフォロワーとして支える集団の組織 ③活動時間の保障 ④意志決定の部分的な委任（責任をもった取組の促しや成功体験をさせるため） ①目的・目標等の明示、共通理解に向けた説明 ②状況に応じた指導、支援、励まし ③成果や努力の称賛（日常）、賞賛（人事評価） ④担当者を動きやすくするためのフォロー（周囲が納得するような言葉かけ等） ①協働実践の目標や内容の協議、策定 ②担当者の選定や協議会等の場、ロードマップ等の設定（大枠の検討） ③情報交換 ①積極的な交流による協働体制づくり ②WIN-WINとなる目標や実践内容の設定 ③学校への理解を深めるための広報活動の推進 ④学校評価の有用性への理解や積極的な参加の促し ①外部人材や関係機関を活用できる状況（交流活動や研修会等）の設定 ②学校にとって必要な人材や物品の洗い出しや活用のための関係構築 ③時間（教育課程への位置づけ）や予算の確保	2.9 2.7 2.7 2.8 2.9 2.4 2.9 2.7 2.4 2.2 1.9 2.0 2.3 2.3 2.3 2.3 2.4 2.6 2.7	2.8 2.7 2.3 2.2 2.3 2.0 2.2 2.5 2.2 1.7 1.7 1.7 1.8 2.0 2.0 1.7 2.0 1.8 1.7	2.0 2.5 3.0 3.5 3.5 3.5 3.5 2.3 2.3 2.5 2.0 2.3 2.3 2.5 2.8 2.5 2.8 2.8 3.5 3.8

9

「アセスメントシート」から見えてきた 共通の課題意識

生徒指導の充実のために、校長が行う働きかけとして
必要性・重要度の高かったもの

- 目標や重点実践事項の共通理解、共通実践
- 校務分掌の改善、活用
- PTAや地域との連携、協働の推進
- 外部人材や関係機関の活用、連携

III 研究の内容と視点

2 研究の視点

- 校長の思いや願い、期待する姿を教職員にどう伝え、どう理解させ、どう実践していくかなど、教職員の意識改革をどのように進めようとしたか。
 - 保護者や地域、関係機関と連携・協働を図りながら、充実した生徒指導を展開するために校内体制をどのように再構築したか。
- ⇒校長は課題に対してどのような働きかけをし、指導性を發揮したかについて考察する。

11

IV 研究の実際

視点1

「好ましい人間関係を築き、他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する学校教育のあり方」

西会津町
銚子ノ口の紅葉

※著作権の関係でお見せできません。

西会津町
銚子ノ口の紅葉

磐越西線の
上野尻駅と徳沢駅
の間で見られます

12

(1)学校経営・運営ビジョンの基本方針に 教育活動を着地させた実践（A校）

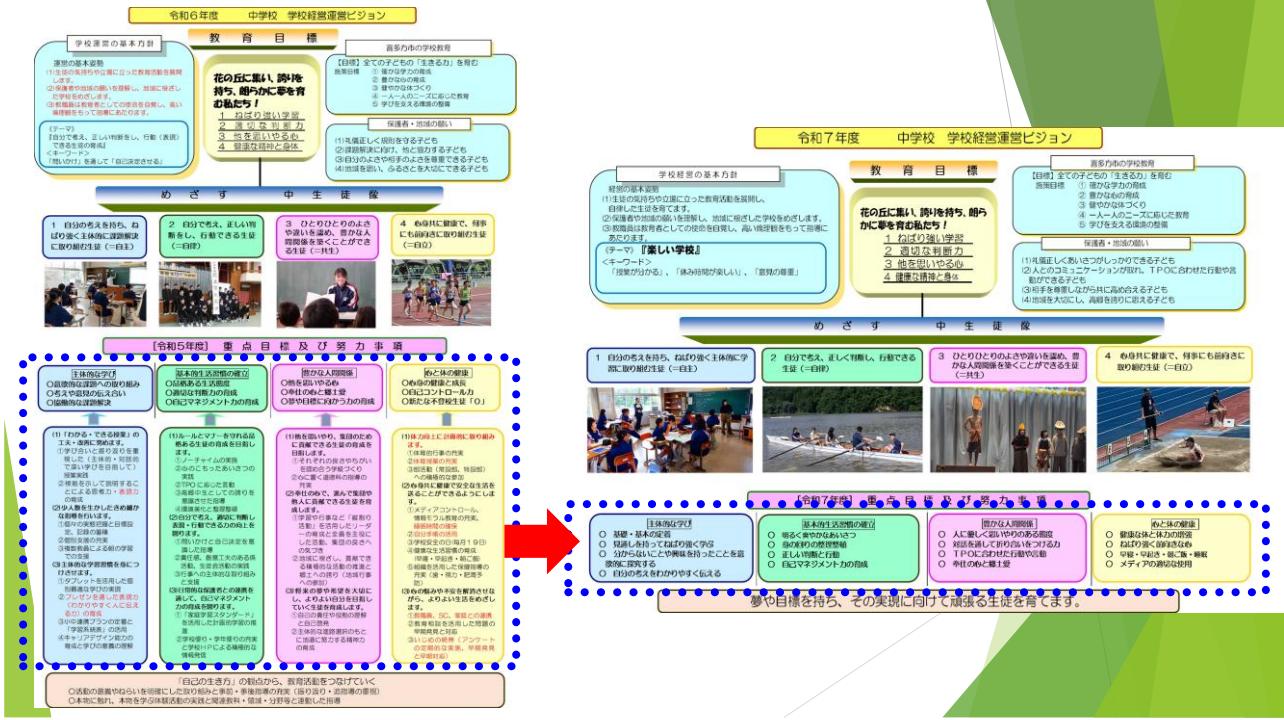
校長として

- ①学校経営・運営ビジョンのスリム化
 - ②教職員と協議の場を設け経営基本方針の設定
→「楽しい学校」への帰着を目指す
 - ③これまでの活動・実践への価値付け
 - ④全校集会や保護者会での説明・問い合わせ

☆教職員の意識改革（自分事としてとらえる）

☆生徒の自己指導能力の育成（主体的な選択・決定）

13



14

(2) 「自己肯定感が育つ授業」を目指した校長による模範授業の実践（B校）

校長として

- ①親和的な学級集団をつくり「自己肯定感」のもてる授業の実践を職員会議等で提案
- ②「自己肯定感が育つ授業」についての提案
- 授業を校長自ら実施
- ③授業を参観し、授業づくりについて助言



- ☆小規模校から入学した生徒の不安を取り除くことができた
- ☆教職員の意識改革と授業改善（講義型の授業からの脱却）が図られるようになってきた

15

(3) 学校統合を控え人間関係づくりを意識した行事の実践（C校）

校長として

- ①次年度統合後に不登校が増加しないよう不安を抱える生徒はいか実態の把握を生徒指導委員会で指示
- ②非認知能力を育成させる学校行事の内容を検討
- ③全校集会での講話

- ☆新規不登校生徒はなし
- ☆農業体験等を通して多くの方々と交流し良好な関係を築く
- ☆統合に対して生徒は前向きな気持ちをもつようになった

16

非認知能力を育てる農業体験 (田植えと稲刈りの写真)



17

(4)ふくしま学力調査の質問紙調査の分析結果を踏まえた学校課題の解決に向けた取組（D校）

校長として

- ①ふくしま学力調査の質問紙調査の分析
- ②エビデンスに基づいた指導の推奨
- ③少人数を生かした一人多役の推進
- ④行事後のまとめ・振り返りの充実
- ⑤チーム担任制の導入

ふくしま学力調査（令和6年度実施） 標準4.0から抜粋

○現中学3年生 2年生の結果

学年	RG→RG(実力化)		RG結果		RG結果 非認知能力	
	自己効力感	表現力	自己効力感	表現力	自己効力感	表現力
学校平均	-0.1	-	3.4	-	3.5	-
市町村平均	-0.2	-	3.2	-	3.4	-
福島県平均	-0.2	-	3.1	-	3.4	-

○ 現中学2年生 1年生の結果

学年	NS→NS(実力化)		NS結果		NS結果 非認知能力	
	自己効力感	表現力	自己効力感	表現力	自己効力感	表現力
学校平均	/	/	3.6	-	/	/
学年平均	-	-	9.6	-	-	-
市町村平均	-0.1	-	3.4	-	3.5	-
福島県平均	0.0	-	3.4	-	3.4	-

☆自己効力感は高いが表現が苦手

→表現力やコミュニケーション力の向上

☆学校や地域の行事を通して多くの方々と交流、良好な関係を築く

18

☆その他の実践（耶麻地区全校で実施） 縦割り活動



19

IV 研究の実際 視点2 「いじめ問題への対応や自殺の防止及び 不登校生徒への支援の在り方」

喜多方市
長床の紅葉

※著作権の関係でお見せできません。

喜多方市 新宮熊野神社
「長床」の紅葉

樹齢800年の大イチョウが
夜はライトアップされます

20

(5) 「いじめを絶対に許さない」というメッセージを生徒・保護者へ出し続ける取組（B校）

校長として

- ①全校集会で「学校はいじめを絶対に許さない」と宣言
- ②PTA総会や保護者会でも「学校はいじめを絶対に許さない」と伝え、家庭との情報共有を依頼
- ③生徒指導主事による「いじめの具体例」の提示と「いじめの定義」についての理解促進

- ☆いじめの認知件数やSNS上のトラブルが昨年度よりも減少
☆新規不登校生徒の数が昨年度よりも減少

(6)OJTによる若手教員の生徒指導対応力の向上を目指した取組（E校）

校長として

- ①校務分掌の見直し（若手とベテランのペア）
- ②いじめ問題に対してチームでの対応を指示
- ③校内で独自に不登校復帰支援コーディネーターを配置
- ④roomFへの申し込みを校長が担う
- ⑤SSWとの連携

- ☆若手教員は三者面談に自信をもって臨んだ
☆初任者一人で対応させず組織で問題解決に取り組む体制が整う
☆不登校生徒にとって安心安全な居場所づくり、居場所探し

IV 研究の実際

視点3

「家庭や地域及び関係機関、専門スタッフ等との連携・協力を密にした生徒指導の推進」

北塩原村
五色沼の紅葉

※著作権の関係でお見せできません。

北塩原村
五色沼の紅葉と磐梯山

エメラルドグリーンや
コバルトブルーの水面に
紅葉が映えます

(7)生徒指導の事案を学校全体の問題として捉えるための外部機関との連携（F校）

校長として

- ①特別な支援を必要とする生徒の捉え方・対応のあり方を生徒指導委員会や職員会議で問題提起
- ②地教委の指導主事やS C、S S Wに繋ぎ、授業参観を依頼
- ③外部機関からの助言を授業や行事等に生かせるよう研修の場を設定

- ☆特別な支援を必要とする生徒の原因・特徴を把握
☆学校全体の生徒指導の問題として共有化
☆外部機関との連携強化

(8)主任児童委員の定期来校によるサポート体制の整備（G校）

校長として

- ①学区各地区の主任児童委員に来校を依頼
- ②主任児童委員と生徒指導主事・SC・SSWを繋ぐ
- ③主任児童委員専用の部屋「談話室」を準備
- ④学区内の小学校にも主任児童委員を紹介



- ☆地域人材との連携強化
- ☆「談話室」をSSRとして利用
- ☆小中の連携も強化



(9)地域学校協働本部事業を活用した家庭支援の実践（H校）

校長として

- ①保護者に地域学校協働活動事業の取組の一つである家庭教育相談室「心のオアシス」を紹介
- ②家庭教育相談室と情報の共有（保護者の了解を得て）
- ③家庭教育相談室の相談員から保護者対応の仕方について研修を受ける機会を設定



- ☆教職員の心理的負担が軽減され、保護者対応の質が向上した
- ☆保護者へ安心感を提供できた
- ☆継続的なネットワークが形成できている

家庭教育相談室「心のオアシス」

西会津町

「心のオアシス」の外観・入り口

※著作権の関係でお見せできません。

西会津町

「心のオアシス」の室内

※著作権の関係でお見せできません。

27

☆その他の実践（耶麻地区全校で実施） スクールカウンセラーによる 全校カウンセリングの実施



C校の
カウンセリング
ルーム

28

V 研究の成果と課題

1 成果 (1) 校長として

- ▶ 校長が明確に方針・方向性を示しリーダー性を発揮することで「チーム学校」の体制整備を進めることができた。
校長の課題意識・熱い想い ⇒ 教職員の意識改革へ
- ▶ OJTを通じて教職員一人一人の生徒指導力が高まり、学校全体の組織的対応力も向上した。
校長のマネジメント力 ⇒ 任せる・寄り添う
- ▶ 校長の働きかけにより、外部機関との連携が進み、生徒・保護者支援の体制が強化された。
校長のコーディネート力 ⇒ 感動を共有できる輪

V 研究の成果と課題

1 成果 (2) 生徒の変容

- ▶ 人間関係づくりに前向きさが出てきた
目的のある班活動・縦割り活動 ⇒ 連帯感・所属感
- ▶ 自己指導能力の大切さに気づいてきた
指示されたことを着実に行う達成感
⇒ 自己をマネジメントするおもしろさへ
- ▶ 学校に居場所が確保され安心感をもつことができた
居心地のよい学級・別室 ⇒ 将来の自分をイメージ
- ▶ 他者とつながる喜びを実感している
地域の方々とのふれあい ⇒ 感謝の気持ち・郷土愛

V 研究の成果と課題

2 課題

- ▶さらなる教職員の意識改革と参画意識の向上が必要
教職員の中から意識改革の必要性を訴える動き
- ▶自他の良さを認め合える多様な教育活動の展開が必要
従来の活動に自己指導能力を育成するという視点をもつ
- ▶不登校の未然防止と学校復帰に向けた組織的な取組の強化
生徒・保護者からのサインを見逃さない目を養う
- ▶関係機関と定期的な情報共有の場・機会の確保
校長による「何かあった時」の前の関係づくり

次年度（2年目）に向けて

- ▶アセスメントベースシートのさらなる活用
校長の課題意識 ⇒ 実践の見通し
だれに、どんな手立てで
振り返り
校長の働きかけの有効性
- ▶耶麻地区としての目指す生徒像の明確化
自己指導能力の育成 ⇒ 研修の充実
情報交換、情報共有

ご清聴ありがとうございました

機会がございましたら耶麻地区へぜひお越しください
温かいラーメンが皆様をお待ちしています

西会津町
会津野澤宿味噌ラーメン

※著作権の関係で
お見せできません。

喜多方市
まこと食堂（閉店）
のラーメン

※著作権の関係で
お見せできません。

北塩原村
奥裏磐梯らあめんや
のラーメン

※著作権の関係で
お見せできません。

西会津町 味噌ラーメン

喜多方市 醤油ラーメン

北塩原村 山塩ラーメン